

防除指針 I

植物成長調整剤の使用上の一般的な注意事項

1. 植物成長調整剤は作物に及ぼす成長調整機能を利用して、作物の成長を栽培上目的とする方向に調節するものであるが、その役割はあくまで補助的なものであるので、その効果を過信しないようにする。
2. 成長調整剤は植物ホルモン様の作用を示すものが多いので、使用にあたっては使用時期、使用濃度、使用量に十分注意するとともに、他作物などへ飛散しないよう注意する。
3. 使用後の残液、器具洗浄液などの処理については、除草剤と同様に慎重な取扱を心がけること。

植調剤				植調剤
作物名	薬剤名	使用目的	品種及び作型	特徴及び注意事項
水稲	タチガレン粉剤 (ヒドロキシイソキサゾール粉剤)	苗の根の生育促進	箱育苗	1. 苗体中のオーキシンの共力作用により、根の生理活性を高める。 2. 極端な多量使用や塩基置換容量が極度に低い土壌での使用は初期生育を抑制することがある。
		ムレ苗の発生防止 (苗立枯病の発生防止)		
水稲	タチガレン液剤 (ヒドロキシイソキサゾール液剤)	苗の根の生育促進	箱育苗	
		ムレ苗の発生防止 (苗立枯病の発生防止)		
水稲	フジワン粒剤 (イソプロチオラン粒剤)	登熟歩合向上	普通期	1. 根部及び地上部の活力の向上や老化防止等の作用を有し、登熟期の稲体を健全化する。その結果、登熟歩合の向上等の効果を示すものと考えられる。従って、登熟期の環境条件が不良の時に処理効果がありやすい。 2. 処理後3～4日間は3cm以上の湛水状態を保ち、施用後少なくとも1週間以上は落水とかけ流しはしない。 3. いもち病、稲こうじ病、小粒菌核病にも登録がある。
		高温登熟下における白未熟粒の発生軽減		
水稲	スマレクト粒剤 (バクロトラゾール粒剤)	節間短縮による倒伏軽減	易倒伏性品種	1. ジベレリンの合成を阻害して細胞の伸長を抑制する効果があり、主として上位節間の伸長を抑えることにより倒伏を軽減する。 2. 散布後5日は3cm以上の湛水状態を保ち、施用後少なくとも1週間以上は落水とかけ流しはしない。 3. 施肥、水管理等肥培管理の基本技術を行った上で使用する(施肥量の増量はしない。) 4. 地力の高い水田や、前作、栽培条件などによって、効果が不十分な場合がある。 5. 重複散布や多量散布は薬害を生じたり、後作物や次年度の作物に影響することがあるので、使用量を厳守する。 6. 後作物として野菜類を作付する場合、生育に影響を及ぼす場合があるので、ていねいに深く耕起する。 7. 本剤を使用した水田土を野菜類の育苗用土に使用しない。 8. 本剤は登熟向上にも登録がある。
水稲	ロミカ粒剤 (ウニコナゾールP粒剤)	節間短縮による倒伏軽減	易倒伏性品種	1. ジベレリンの合成を阻害して細胞の伸長を抑制する効果あり、主として上位節間の伸長を抑えることによって倒伏を軽減する。 2. 散布後5日は3cm以上の湛水状態を保ち、施用後少なくとも1週間以上は落水とかけ流しはしない。 3. 施肥、水管理等肥培管理の基本技術を行った上で使用する(施肥量の増量はしない。) 4. 地力の高い水田や、前作、栽培条件などによって、効果が不十分な場合がある。 5. 重複散布や多量散布は薬害を生じたり、後作物に影響することがあるので、使用量を厳守する。 6. 後作物として野菜類を作付する場合、生育に影響を及ぼす場合があるので、ていねいに深く耕起する。 7. 本剤を使用した水田土を野菜類の育苗用土に使用しない。
水稲	イネビタン粒剤 (イソプロチオラン・バクロトラゾール粒剤)	節間短縮による倒伏軽減	易倒伏性品種	1. ジベレリンの合成を阻害して細胞の伸長を抑制する効果があり、主として上位節間の伸長を抑えることにより倒伏を軽減する。 2. 散布後5日は3cm以上の湛水状態を保ち、施用後少なくとも1週間以上は落水とかけ流しはしない。 3. 施肥、水管理等肥培管理の基本技術を行った上で使用する(施肥量の増量はしない。) 4. 地力の高い水田や、前作、栽培条件などによって、効果が不十分な場合がある。 5. 重複散布や多量散布は薬害を生じたり、後作物や次年度の作物に影響することがあるので、使用量を厳守する。 6. 後作物として野菜類を作付する場合、生育に影響を及ぼす場合があるので、ていねいに深く耕起する。 7. 本剤を使用した水田土を野菜類の育苗用土に使用しない。 8. 本剤はいもち病及び登熟向上にも登録がある。
水稲	ビピフルフロアブル (プロヘキサジオンカルシウム塩水和剤)	節間短縮による倒伏軽減	易倒伏性品種	1. 倒伏の軽減を必要とする所へのみ処理する部分散布(スポット散布)も可能である。 2. 多量散布や重複散布にならないように注意する。